

ビフォーとアフターが一目でわかる発明が変えた世界史

泉谷 諭司 1), 2)

- 1) リハビリテーション・エンジニアリング編集委員会
2) 電制コムテック株式会社 ブランド事業部

ビフォーとアフターが
一目でわかる
発明が変えた世界史
祝田 秀全 監修
かみゆ歴史編集部 編集
朝日新聞出版
2025年



昨今、多くの新技術・新製品が生まれ、私たちの生活を豊かにしております。こうした新たに生み出された方法や技術を、本紙では“発明”と呼ぶことになりますが、偉大な発明は何も急に生まれたわけではありません。多様な人々が一歩ずつ積み重ねてきた“歴史”がその基盤にあり、こうした歴史を私たちが知り、学ぶ“教育”があることで新しい発明に繋がっていくものと思います。本紙では、そんな発明の歴史を知るきっかけになる一冊について、僭越ながらご紹介させていただきます。

本書は、現代では“あたりまえ”になっている多くの発明について、時代毎にスポットを当ててまとめられた一冊です。各時代の発明が“どのようにして生まれたのか”、またその結果として現代社会にまで“どのような影響を与えたのか”がまとめられており、多くの事例やイラストと共に図示されております。大変読みやすい本となっておりますので、ご興味のある方はぜひ一度、お手に取ってみるのはいかがでしょうか。

1) リハビリテーション・エンジニアリング編集委員会

2) 電制コムテック株式会社 ブランド事業部

<https://www.dencom.co.jp/>

本書の第一章は古代の発明から始まります。今も皆さんが目にしているこの“文字”や、生活する上で欠かせない“貨幣”について、時代背景やどんな目的で生まれたかなどが分かりやすくまとめられています。

続く第二章は中世・近世に移り、大航海時代が始まります。人々がより広い範囲、長い距離を移動するようになりますが、そこには“火薬”や“羅針盤”、“活版印刷”といった世界三大発明が登場します。

更に進んだ第三章では、17世紀～18世紀の発明が登場します。この時代はイギリスで産業革命が起り、世界的にも大きな変化が起こりました。発明もこの時代に代表される“蒸気機関”だけでなく、“保険”といった万が一の時に私たちを守ることが出来る新しい相互扶助の制度が生まれ、人と人が支え合う社会の形が色濃くなっています。

そして第四章では19世紀に入り、いよいよ“電気”が登場し、社会インフラがガラッと変わります。第五章～最終章では、20世紀以降の発明に触れられ、“スマートフォン”など大変馴染み深いものが登場します。

ここまでざっと紹介するだけの内容となってしまいましたが、いかがだったでしょうか。“歴史”と聞くとリハビリテーション工学にあまり関係ないように思われるかもしれません、実は登場する発明が本分野に大きく影響を与えているケースもあります。本紙が読者の皆さまの新しい発見や気付きなどの何らかのお役に少しでも立てたのであれば大変嬉しく存じます。ここまでお付き合いいただきありがとうございました。